
 一般論文

年少児への「紙人形を用いたお話」実践に関する一考察 ～実践録画映像に対する保育者の語りの内容分析を通して～

Classifying Effective Narrative Practices

When Using Paper Dolls with Three and Four-year-old Children

河西梨花, 山内淳子

Rika KASAI Junko YAMAUCHI

概要

保育者は日々、絵本、紙芝居、素話などを保育に取り入れているが、実際にはこれら3つのカテゴリーにはまらないものもある。とくに年齢の低い幼児には、絵のない素話は難しいという理由から、保育者が黒板に絵を描いたり、紙人形やパペットを用いたりしながらお話をするという実践が頻繁に行われている。絵本、紙芝居、素話などの実践についてはこれまでに研究がなされてきているが、こうした紙人形等の視覚教材を用いたお話についての研究はほとんどなされてこなかった。そこで本研究では、筆者自身が年少児を対象に「紙人形を用いたお話」を実践し、その実践を録画した映像に対して複数の保育者に語ってもらい、その語り内容の分析を通して、「紙人形を用いたお話」実践における保育者の工夫や配慮について明らかにしていくことを試みた。保育者の語りの内容を分類していった結果、「声・話し方」「効果音」「体の動き」「紙人形の効果的活用」「ストーリーの明確化」「子どもの参加」「安心・喜びへの配慮」「テーマの設定」「全体の構成」「環境設定」の10の大カテゴリーが設定された。これらの大カテゴリーはさらに細かい小カテゴリーに分類され、小カテゴリーは計32におよんだ。

I. 研究の目的

保育者は日々、様々なねらいをもって、絵本、紙芝居、素話などを保育に取り入れている。しかし実際には、これら3つのカテゴリーにはまらないものもある。とくに年齢の低い幼児には、絵のない素話は難しいという理由から、保育者が黒板に絵を描いたり、紙人形やパペットを用いたりしながらお話をするという実践が頻繁に行われている。こうした実践は、保育者が子どもたちとの日々の生活の中で感じている課題をもとに、保育者自身が創作したストーリーを通して、子どもたちにその時伝えたいと思うメッセージを伝えようとするものであることが多い。

絵本、紙芝居、素話などの実践については、これまでに研究がなされてきているが¹⁾、この3つのカテゴリーにはまらない、紙人形等の視覚教材を用いたお話についての研究はほとんどなされてこなかった。しかし、年齢の低い幼児の保育では頻繁に実践されているものであり、その実践について考察することは重要であると考えた。

そこで、本研究では、筆者自身が年少児を対象に「紙人形を用いたお話」を実践し、その実践を録画した映像に対して複数の保育者に語ってもらい、その語りの内容を分析することを通して、「紙人形を用いたお話」実践における保育者の工夫や配慮について明らかにすることとした²⁾。

II. 研究の方法

2016年6月30日に、Y県X幼稚園の年少児クラス（23名）において、筆者（幼稚園教諭免許状と保育士資格をもつ専攻科学生）が「紙人形を用いたお話」の実践を行った。実践者の様子、子どもの様子をそれぞれ2台のカメラで撮影した。実践の概要は表1の通りである。

2016年7月4日に、実践録画映像を表2に示す5名の保育者（A, B, C, D, E）に視聴してもらった。はじめに、約10分の実践の録画映像（実践者

を映したものと子どもを映したものの2つを同時再生したもの）を視聴してもらった。その後、もう一度、実践者を映した映像のみ、はじめから、途中で何度か停止しつつ視聴してもらい、その実践について、「保育者が幼児の集団を対象に話をする場面で、幼児をひきつける（興味・関心を持続させる）ための工夫」の視点から、5名の保育者に自由に語ってもらった。保育者の語りは了承を得てボイスレコーダーで録音した。録音した保育者の語りは後日文字化し、分析をくわえていった。

表1 「紙人形を用いたお話」実践の概要

<p>【テーマ】 手洗い、うがいの大切さを伝える</p>	<p>【紙人形】 うさぎ（ピョンコちゃん） くま（クマタロウ君） きつね（コンキチ君） （この他に、ばい菌2枚を用いたが、これらは登場人物としてではなく小道具として用いた）</p>
<p>【流れ】 日頃から子どもたちが親しんでいる「動物幼稚園のお友達：うさぎのピョンコちゃん、くまのクマタロウ君、きつねのコンキチ君」（紙人形）について子どもたちに問いかけながら、黒板上に登場させる。ピョンコちゃん、クマタロウ君、コンキチ君の紙人形は原則黒板に貼ったままで、場面に応じて1枚ずつ手に持ったり、指さしたりした。</p> <p>動物幼稚園のお友達は砂場で山を作って遊んでいた→保育者の声で入室し、それぞれ手を洗いに行った→ピョンコちゃんは手洗いうがいを（この場面で実践者は歌いながら「手洗いの手遊び」をする）、自分が持っていたハンカチで拭く→コンキチ君も手洗いうがいを（この場面で実践者は歌いながら「手洗いの手遊び」をする）、ハンカチで手を拭かず自分の服で手を拭こうとする（ここで実践者が子どもたちに、服で手を拭くのはよいことか問いかけ、自分のハンカチで拭くよう伝える）→クマタロウ君は先生に手洗いうがいをしたか聞かれるが、曖昧な返事をする→みんなが揃い、給食の時間が始まり、ピョンコちゃんとコンキチ君はおいしそうに給食を食べるが、クマタロウ君がお腹が痛いと泣く→先生が本当に手洗いうがいをきちんとしたのかクマタロウ君に聞くと、「してない」と答える。</p> <p>実践者は、「ばい菌」の紙人形を2枚両手に持ちながら、子どもたちと動物幼稚園のお友達に、手にはたくさんのばい菌が付いているので、ご飯を食べる前にはきちんと手洗いうがいをしなくてはならないと伝える。また、手洗いうがいは食事の前だけではなく、外からお部屋に入ったとき、お家に帰ってからなどいつでもしてよいことを伝え、子どもたちと一緒に「手洗いの手遊び」をする。</p>	

表2 実践録画映像の視聴・語りを求めた保育者

保育者	保育歴
保育者 A	33年
保育者 B	24年
保育者 C	9年
保育者 D	7年
保育者 E	34年

III. 研究の結果と考察

1. 保育者の語りの全体的傾向

保育者の語りの内容を分類していった結果、表

3に示す通り、「声・話し方」「効果音」「体の動き」「紙人形の効果的活用」「ストーリーの明確化」「子どもの参加」「安心・喜びへの配慮」「全体の構成」「環境設定」の9つの大カテゴリーが設定された。これらの大カテゴリーはさらに細かい小カテゴリーに分類された。年少児への「紙人形を用いたお話」実践をする際に、保育者が表3に示されるような様々なポイントを重視していることがわかる。

表4-2 「声・話し方：話すテンポを適切に保つ」にかかわる保育者の語り

- ・[紙人形の動物を紹介するときに]・・・言葉と言葉の間がないから・・・子どもたちが先生の話に集中して聞けるのかなって・・・(C)
- ・[年少]さんってあんまり[間が]あきすぎても・・・子どもの目見て子どもの反応を見ながら、テンポよく話しているという部分の中では、・・・すごく子どもが興味を [もっていたと思う] (A)テンポ大事(C)・・・[年少]組さんって、ちょっとした間を失うと・・・興味がそれたりってことがあるから、[話すスピードが]はやすぎることが決していいことではないけども(A)
- ・[子どもたちへの質問が難しく子どもたちが] シーンってなったときに・・・先生がずーっと待っているとまたそこで間があくじゃないですか(B)・・・だけど、そのテンポでいったから(C)・・・よかったね(C) [子どもの答えを待って] 止まっちゃうわなっていうことだよな (B)・・・[子どもは] わからなかったけど・・・先生がそこで始めちゃうっていうテンポがよかったんじゃないかな・・・(C)
- ・テンポいいけど早口過ぎない(A)・・・早口で・・・ってことはなかったよ(A)

[]:筆者の補足 ……:省略 ():保育者A～E

表4-2に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、話すスピードは速過ぎず遅過ぎず、素話の中で不必要に間を入れ過ぎ

ず、子どもの興味がそれないようにテンポよく話すことが重要であると保育者が捉えていることがうかがわれる。

表4-3 「声・話し方：声のトーンをかえて雰囲気をつくる」にかかわる保育者の語り

- ・[先生の体の中に] ばい菌 [紙人形] が入ってくるとき・・・声を低くしていたじゃないですか、ああいうの、雰囲気が出ていいんじゃないかな(D)

[]:筆者の補足 ……:省略 ():保育者A～E

表4-3に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、登場人物に応じて声

を低くするなどして雰囲気をつくり出すことが重要だと保育者が捉えていることがうかがわれる。

表4-4 「声・話し方：声のボリュームを調節する」にかかわる保育者の語り

- ・・・[日常の保育中でも] 大きい声で言う場面と、ボリュームがすごく小さくて・・・静かにしないと聞こえないぐらいで・・・言う・・・のを使い分けて・・・(B)メリハリを付けて(E)そう(B)メリハリを付けると、子どもたちが集中する・・・(E)

[]:筆者の補足 ……:省略 ():保育者A～E

表4-4に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、一番伝えたいところを、大きい声で言ったり、あえて逆に小さい声で

言ったりと、話すボリュームにメリハリを付けて話すことが重要だと保育者が捉えていることがうかがわれる。

表4-5 「声・話し方：登場人物ごとに声色や話し方を変える」にかかわる保育者の語り

- ・・・[登場人物で] 声色変えますよ、結構大きさに(C)・・・なんかばい菌だったらほんとにどすがきいた感じとか。クマちゃんだったら低く、コンキチ君だったらテンポはやくとか(C)声色とスピード(D)そうそう・・・(C)うん、そうだね(B)紙芝居読むときも・・・結構登場人物に応じて声を変えてあげるのも、惹きつけるポイント(C)

[]:筆者の補足 ……:省略 ():保育者A～E

表4-5に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、登場人物に応じて、

そのイメージから声色を大きさに変えることが重要だと保育者が捉えていることがうかがわれる。

3. 「効果音」に関する保育者の語り
次に、年少児への「紙人形を用いたお話」実践における「効果音」について、保育者がどのようなことを具体的に重視しているのか、関連する語りについて詳しくみていきたい。

表 5-1 「効果音：足をならすなどによって声以外の効果音を入れる」にかかわる保育者の語り

・・・[日常の保育で] パペットとか使うときは、[たとえば、保育室の] 扉のどこをトントンと叩いて、あれ？ここに誰がいるかもしれない、・・・コンコンとか [足を鳴らしながら] 足でドンドンドンってやったりとか、なんかその辺は・・・すぐに使ったり(B)

[]：筆者の補足 ・・・：省略 ()：保育者A～E

表 5-1 に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、たとえば、ここに誰がいるかもしれないということ表現するのに、扉を叩いたり、足をならしたりと声以外に効果音を取り入れることが重要だと保育者が捉えていることがうかがわれる。

表 5-2 「効果音：歌を取り入れる」にかかわる保育者の語り

・・・ [日常の保育で] ばい菌 [の紙人形を] 使うときは、・・・[♪ばいきんマンの曲歌う](C)あ～(B)・・・ BGMを出して、この音楽イコールばい菌みたいな(C)ばいきんマンのテーマですか(D)・・・とかやったりする・・・(C)

[]：筆者の補足 ・・・：省略 ()：保育者A～E

表 5-2 に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、子どもが知っているアニメの歌を取り入れたり、その場面の雰囲気にあった歌を取り入れることが重要だと保育者が捉えていることがうかがわれる。この登場人物のときには必ずこの音楽がかかるということを繰り返すことで、お話を盛り上げるという工夫も大切に

されいていることがうかがわれる。

4. 「体の動き」に関する保育者の語り

次に、年少児への「紙人形を用いたお話」実践における「体の動き」について、保育者がどのようなことを具体的に重視しているのか、関連する語りについて詳しくみていきたい。

表 6-1 「体の動き：ジェスチャーで表現する」にかかわる保育者の語り

・・・[外遊びの場面で、砂で山をつくる]ジェスチャーも・・・あったから [わかりやすかった] (A)そう(B)・・・砂場って子どもがすごく好きで、よく行って、山をつくったりしているから・・・すごく身近に実際に経験したものであるものだったりするから(B)

[]：筆者の補足 ・・・：省略 ()：保育者A～E

表 6-1 に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、ジェスチャーで表現することが重要だと保育者が捉えていることがうかがわれる。特に子どもにとって身近な、子ども

自身がよく体験していることをジェスチャーで示すことで、よりお話がイメージしやすくわかりやすいものになると捉えていることがわかる。

表 6-2 「体の動き：指先までピンと伸ばして手遊びをする」にかかわる保育者の語り

・・・[手遊びをする場面で] 爪の動きがきれいだね・・・びっとしてて(A)

[]：筆者の補足 ・・・：省略 ()：保育者A～E

表6-2に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、手遊びをする際に、指先までピンと伸ばし、指の動きがきれいに見えるようにすることが重要だと保育者が捉えていることがうかがわれる。

5. 「紙人形の効果的活用」に関する保育者の語り次に、年少児への「紙人形を用いたお話」実践における「紙人形の効果的活用」について、保育者がどのようなことを具体的に重視しているのか、関連する語りについて詳しくみていきたい。

表7-1 「紙人形の効果的活用：日頃から親しんでいる登場人物（紙人形）を活用する」にかかわる保育者の語り

・・・4月から子どもたちが[親しんでいる紙人形が]・・・話の中に出てきた[ので]・・・スムーズに・・・子どもたちも[お話に入れたと思う]・・・今回はどんなお話になるのかな？と言って・・・興味をもっていた・・・(B)

[]：筆者の補足 ……：省略 ()：保育者A～E

表7-1に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、子どもたちがスムーズにお話の世界に入っていけるようにするには、

以前から子どもたちが親しんでいる紙人形を用いることが効果的であると保育者が捉えていることがうかがわれる。

表7-2 「紙人形の効果的活用：紙人形の表情を変化させる」にかかわる保育者の語り

・[どの場面にしても]全然3人[紙人形]の表情も変わらないから[感情が伝わりにくい](A)・・・涙とか付けたら面白いかもね(B)裏返したときに泣いているとか(A)
 ・たった裏返して目が泣いているだけでも[いいと思う]・・・(A)そうそうそう(B)・・・痛そうだよ、泣いているよ(A)

[]：筆者の補足 ……：省略 ()：保育者A～E

表7-2に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、素話の展開に応じて紙人形の表情を変え、登場人物の感情を子どもた

ちにわかりやすくすることが重要だと保育者が捉えていることがうかがわれる。

表7-3 「紙人形の効果的活用：紙人形を放置しない」にかかわる保育者の語り

・[黒板の紙人形が]そのまま終わっちゃってるから(E)うん(B)・・・ずーっとあの位置[黒板の中央]なので(D)
 ・・・・[動物の]立ち位置・・・全然変わらないからね(A)
 ・[黒板の紙人形が]水道行きます、とか・・・いなくなる時間とかあったり[すると、登場人物がどこにいるのかがわかりやすい](D)・・・[ピョンコちゃんの場面では、他の紙人形を]ちょっと引っ込めて・・・ピョンコちゃんだけ洗っているんだったら、ピョンコちゃんだけそっち[水道の方]にいて・・・洗ってまた歌うたって戻ってくるとか。・・・(D)

[]：筆者の補足 ……：省略 ()：保育者A～E

表7-3に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、紙人形を最後まで定位置に貼り放置しておかないことが重要だと保育者が捉えていることがうかがわれる。保育者が紙人形を手を持ち移動させてみたり、一度紙人形を引っ込めたりして、視覚的にわかりやすくするこ

とが重要だと考えられていることがわかる。

6. 「ストーリーの明確化」に関する保育者の語り次に、年少児への「紙人形を用いたお話」実践における「ストーリーの明確化」について、保育者がどのようなことを具体的に重視しているのか、関連する語りについて詳しくみていきたい。

表 8-1 「ストーリーの明確化：各登場人物の個性を明確にしてストーリーをわかりやすくする」にかかわる保育者の語り

- ・[手洗いうがいの場面で、クマタロウ君が、手を洗うのは] 面倒だからいや〜とか・・・[登場人物に] 性格付けとか設定すると [ストーリーがより] わかる(A)
- ・[お話の] 最初の部分・・・で [個性を] 明確にしておくとか [よい]・・・(A)

[]：筆者の補足 ・・・・：省略 ()：保育者A～E

表 8-1 に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、登場人物の個性をお話の最初の部分で明確に示すことで、子どもにとっ

てストーリーをよりわかりやすいものにするのが重要だと保育者が捉えていることがうかがわれる。

表 8-2 「ストーリーの明確化：台詞やナレーションでストーリーをわかりやすくする」にかかわる保育者の語り

- ・[クマタロウ君の手洗いしてきたというそに]・・・してきたんだ〜って [保育者が言うと、子どもはクマタロウ君のうそに気付かず、そう] 思っちゃう(D)・・・あとの話の展開と [結び付かなくなる] (A)
- ・さっき水かけただけじゃなかった？とか。たとえば、先生が見ていた設定[にして]・・・(D)ほんとにした？(C)ちょっとだけしたの？(A)本当に？おてて見せて？とか・・・(D)
- ・・・・もうちょっとこの子 [クマタロウ君] は洗ってないというのが(D)はしっかりしていたほうが(B)うん(D)

[]：筆者の補足 ・・・・：省略 ()：保育者A～E

表 8-2 に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、素話のストーリーがわかりやすくなるように、台詞やナレーションを

工夫することが重要だと保育者が捉えていることがうかがわれる。

表 8-3 「紙人形の効果的活用：お話の展開に応じて背景等を描く」にかかわる保育者の語り

- ・[動物たちがお砂場で山をつくって遊ぶ場面では、ジェスチャーで表現する他に] 黒板にお山の絵を描いてあげたりしても(D)イメージしやすいよね(C)うん(B)
- ・[黒板に] 絵を描いて・・・遊びが終わった[場面で、絵を] 消してあげて(D)そう(C)
- ・[砂場で遊ぶ場面、黒板に山の絵を] 描いてからそのあと・・・そのお山を先生がポンポンって手をいっぱい使ってるっていう・・・真似だけ[をしたり] (D)
- ・[日常の保育では] 結構動物 [の紙人形] 使うとき、一緒に絵も(C)そう(B)絵を使ったりすると、子どもがイメージしやすい。・・・次の活動に・・・なるよって・・・ときに消してあげると、場面変わったなってわかると思います(D)
- ・・・・とくに年齢が低いと・・・[黒板にばい菌の] 絵を描いて [あげると]・・・ばい菌になっちゃうとか、汚れるっていうのがよりわかりやすい(A)
- ・[場面が変わるときには、黒板の] 端っこで砂場が[描いて] あったら・・・線とか区切らなくても、あっちがお部屋かなとか[わかりやすくなる]。(A)
- ・[日常の保育でも、絵の] 上手な先生たちは、もうその場で・・・チョークで描いちゃって(C)
- ・[視覚教材を] 用意してないときは描くんですけど、あらかじめ画用紙でつくっておくとか・・・パソコンでイラスト出しておくとかしておくとか、パパッと貼れちゃうから[スムーズに話が流れると思う]。(C)
- ・・・・[年少児にお話をするとき] 黒板を活用したりとか、・・・視覚的なことを[用いたりします]・・・(E)うん(D)・・・やっぱり年齢が小さくなればなるほど、視覚とかそういうものからの訴えがないと、言葉だけでは理解しきれない(E)
- ・・・・集中したりとか、子どもによく理解してもらいたいっていう意味では[効果的]・・・(A)
- ・[年中の場合] ああいう [紙人形を使った] 教材は、年少よりは[活用することが] 少ない・・・絵で描く先生とかは、いると思うけども(A)
- ・子どもが・・・イメージできづらいなっものは、画像とか何か必要・・・(E)

[]：筆者の補足 ・・・・：省略 ()：保育者A～E

表8-3に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、登場人物が今どこで何をしているのかわかりやすくするために、黒板に背

景のイラストを描いたり、貼ったりすることが重要だと保育者が捉えていることがうかがわれる。

表8-4「ストーリーの明確化：お話の展開に応じて小道具等を活用する」にかかわる保育者の語り

- ・[クマタロウ君が]お腹が痛いもお給食と一緒にばい菌食べちゃうっていうのも、その部分の場面の中では・・・
- ・わかりづらかったというか・・・(A)
- ・[手洗いの場面で]クマタロウ君がさっき手洗いをちゃんとしていなかったことが、子どもにわかるよう[視覚的に]ははっきり・・・伝えてあげたら、このところ[給食の場面]でお腹痛いって泣いている・・・[理由がわかる](D)
- ・[給食の場面で]今日の給食は、オレンジとかご飯とか・・・[オレンジやご飯の絵の小道具も事前につくっておいて]実際に出して、それと一緒にばい菌マン[ばい菌の絵の小道具]も食べ物の上に付いていると、またちょっと面白いかな(B)
- ・・・・ばい菌[ばい菌の絵の小道具]が[動物の手に]付いているってのがあれば、クマタロウ君だけ[手にばい菌が]残っているから[わかりやすい](A)

[]:筆者の補足 ・・・:省略 ():保育者A～E

表8-4に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、お話の展開に応じて小道具等を活用し、視覚的にもストーリーをわかりやすくすることが重要だと保育者が捉えていることがうかがわれる。クマタロウ君だけ手をしっかり洗っていなかったため、給食のときお腹が痛くなったというストーリーを子どもにわかりやすくするためには、ばい菌の絵の小道具を、クマタ

ロウ君の手に付けるなど、有効に活用するとよかったという語りが多くなされていた。

7. 「子どもの参加」に関する保育者の語り

次に、年少児への「紙人形を用いたお話」実践における「子どもの参加」について、保育者がどのようなことを具体的に重視しているのか、関連する語りについて詳しくみていきたい。

表9-1「子どもの参加：手遊び等で子どもが参加できるようにする」にかかわる保育者の語り

- ・・・・[お話の中で手遊びをするのが]2回目だから子どもたちと一緒にやらないのかな?って思った・・・(C)
- ・[最後にみんなで手遊び]やってたからよかったんだけど、そろそろ、じゃあみんなもやってみる?やってみて?って言うと、わからないながらについてきてくれるので、2回目でやらせてしまっても。私だったら一緒にやって?みたい・・・できないのは承知だけれども。さっき1回聞いたからわかる子は言えるかな?みたいな思いの中で、一緒にやって～って言ってどンドン一緒に進めちゃったりちゃいますね(C)
- ・[一緒にやるようには言っていなかったけど、2回目の]手遊びもみんなやってるんだよね、子どもたち(B)わかりやすかったし(C)集中切れたと思ったけど、これ[手遊び]でまた[集中した](D)うん(B)・・・参加型だよね(C)

[]:筆者の補足 ・・・:省略 ():保育者A～E

表9-1に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、集中力を持続させるためにも、お話の間に手遊び等を取り入れ、子ども参加型にすることが重要だと保育者が捉えてい

ることがうかがわれる。手遊びは子どもたちがまだ十分に覚えてきていなかったとしても、2回目くらいから一緒にやろうと積極的に促すことが重要だと考えていることもわかる。

表9-2 「子どもの参加：子どもたちから発言を引き出す」にかかわる保育者の語り

- ・「食べる前に、給食の前にみんなは何する？」って言って子どもに、手を洗うとかトイレに行くとかっていうのを、子どもからこう [引き出すとよい] (D)
- ・[子どもから発言を] 引き出すと、なんか掛け合いみたいな感じで、一方的に話さなくても(D)・・・先生が話をしておもうっていうふうに、素話だからってしなくても・・・すべて給食の話も手洗いの話も全部こう言わなきゃでなくて、子どもの反応を見たり・・・[するとよい] (A)
- ・[クマタロウ君が給食を食べたあとお腹が痛くなる場面で] なんて痛いのかなって子どもに投げかければ(D) 子どもから答えが返ってくるかも(B)
- ・クマタロウ君が・・・手を洗ってないからお腹痛くなったって・・・[そのことを保育者がすぐ言うのではなく、] そこ・・・[を子どもたち自身に] 一番考えてほしかった、やっぱり子どもが考える何か [があるとよい]・・・(D)
- ・先生が子どもたちに [手洗いうがいの大切さを] 教えてあげる素話になっているけど(C)うん(D)子どもが自ら考えて、先生に掛け合うっていう態勢のほうがもっと入ってくる [と思う]・・・(C)
- ・大切な所は問かけ式にした方が [よい] (D)
- ・すごくわかりやすく、先生の言っていることわかるんだけど、さらに、[子どもとの] 掛け合いがプラスアルファされると(C)掛け合いを(D)

[]: 筆者の補足 ……: 省略 (): 保育者A～E

表9-2に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、保育者が一方的に話をしてしまうのではなく、子どもたちに問かけて、子どもたち自身が考えられるようにしたり、

子どもたちからの発言を引き出ししたりすることが重要だと保育者が捉えていることがうかがわれる。ここでも子ども参加型にすることが重視されていることがうかがわれた。

表9-3 「子どもの参加：子どもたちに問かけるときは適切な難易度にする」にかかわる保育者の語り

- ・[手洗いうがいをしなくてはいけなときは] お入りのとき以外に、じゃあ何があるの？って難しいんじゃないかな(C)

[]: 筆者の補足 ……: 省略 (): 保育者A～E

表9-3に見る通り、実践者が「手洗いうがいは食事の前にもしなくてはいけない」という子どもたちからの答えを期待してした問かけについて、年少児には難しい問いであったという指摘がなされていた。ここから、年少児への「紙人形を

用いたお話」実践においては、対象の子どもたちが答えやすい、適度な難易度の問かけをすることが重要だと保育者が捉えていることがうかがわれる。これも子ども参加型にするためにこそ重視されているものと推察される。

表9-4 「子どもの参加：子どもたちが登場人物に教える立場になれるようにする」にかかわる保育者の語り

- ・[クマタロウ君が給食を食べようとしているときに] 「だめだめだめ～ [ばい菌ついてるから] 食べちゃだめ～」とかさ、「おてて [口に] 入れちゃだめなんだよ」とかっていうような [子どもたちの] 反応がもっとあっても [よかったと思う] (A)
- ・みんな [紙人形] の手にばい菌を付けておいて、クマタロウ君・・・[は] 適当に [手を] 洗ったから(D) [クマタロウ君の手についているばい菌は] 「取れないよ、流れないよ、あー先生、だめだめ、今食べたらお口の中に [ばい菌が] 入っちゃう」っていうふうに子どもたちに・・・気付かせて、子どもたち自身がそうやって・・・[手にばい菌がついていることをクマタロウ君に教えてあげられるようにする] (A)
- ・クマタロウ君に教えてあげようねって言って、子どもから [クマタロウ君に教えてあげられるように] (D) 今までの話が子どもたちがわかっているかどうか確認ね(B)確認もできるし、子どもからあえて言葉にまた出すことで、頭に残りやすかったりと思う・・・(D)お友達の意見も聞くから言わない子も(B)うん(D)あ、そうなんだって(B)参考になる(D)そうだね(B)

[]: 筆者の補足 ……: 省略 (): 保育者A～E

表9-4に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、ストーリーの展開に子どもたちが反応し、子どもたちのほうから登場人物に教えてあげられるようにすることが重要だと保育者が捉えていることがうかがわれる。保育者が子どもたちに伝えたいと思うメッセージがある場合、それを保育者が一方的に伝えるのではな

く、お話の展開の中で子どもが気付いて、むしろ子どもたちの方からそのメッセージを登場人物に教えるような流れにすると、メッセージが子どもたちにしっかり理解できているかの確認ができたり、メッセージが子どもたちの記憶に残りやすくなり、保育者が考えていることがわかる。

表9-5 「子どもの参加：登場人物も子どもたちの仲間であるという設定にする」にかかわる保育者の語り

- ・クマタロウ君のケア[最後にクマタロウ君を悪者にせず、仲間だから教えてあげようという終わり方]がすごいね、優しい(C)・・・でも確かにね、人だもんね、もはや(C)うん(D)
- ・[動物幼稚園のお友達も同じクラスの]友達だからね(C)そう(D)確かに(C)すごい身近な存在だからね(D)素晴らしい(C)みんな仲間だしね(B)そう(D)
- ・[このクラスの]20何人に3匹が増えたみんなが仲間だから・・・仲間外れとか、みんなが[お腹]痛くないような思いにできるといいね(A)
- ・みんなが元気でいられるようにね(B)ピョンコちゃんとコンキチ君がやったの[丁寧な手洗い]を今度はくまちゃんも真似してやろう(E)覚えてね(D)3組のお友達も一緒にやってみる?って言う感じに言えば[自然に手洗いの手遊びができると思う](E)
- ・結構素話ってトラブルのときに使用するんですけど、最後その子だけ悪者で終わらないような設定にしている。じゃあその子もわかったからみんなに優しくしてねとか、みんなと仲良く遊ぼうねっていう仲良しになりました、で終わる[ようにしている](C)

[]:筆者の補足 ・・・・:省略 ():保育者A～E

表9-5に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、望ましくない行動をとる役の登場人物を悪者にして終わらせることなく、登場人物全員を子どもたちの仲間として扱うことが重要だと保育者は捉えていることがうかがわれる。たとえば、子ども同士のトラブルをテーマにお話をつくる際にも、望ましくない行動をとる役の登場人物も、最後は仲間として大事にし、

みんなで仲良くするという終わり方にするのが重要だと捉えられていた。

8. 「安心・喜びへの配慮」に関する保育者の語り
次に、年少児への「紙人形を用いたお話」実践における「安心・喜びへの配慮」について、保育者がどのようなことを具体的に重視しているのか、関連する語りについて詳しくみていきたい。

表10-1 「安心・喜びへの配慮：自分だけ・・・と不安にさせず、安心できるようにする」にかかわる保育者の語り

- [各自持っているハンカチを出して手を拭くという場面で、ハンカチを持っていなかった子がいたのに対して]
- ・[年少児は]自分だけないとか、自分はやってないとかっていうと心配になったり不安に思ったりする・・・から。・・・本当のハンカチだったり、そうじゃなくても[透明のハンカチ出してって言ったりして](A)大丈夫よって(B)大丈夫だよ～って(A)言ってあげると安心できるかもしれない(B)

[]:筆者の補足 ・・・・:省略 ():保育者A～E

表10-1に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、対象が年少児であることを特に意識して、「自分だけ～でない」という心配や不安を子どもたちが抱かないように、全

員ができることを取り入れること、全員が持っているものを使うことが重要だと保育者は捉えていることがうかがわれる。

表10-2 「安心・喜びへの配慮：最後に期待や喜びを感じられるようにする」にかかわる保育者の語り

- [話の] 最後に、大切なことわかったかなって [子どもに確認する] (E)うん(B)
- 今度は上手にできるようになるねとか(E)そうそう(B)
- [話の最後に、子どもたちに] 成功体験させてあげて(A)
- お友達と一緒に練習したから、クマタロウ君も次は上手にできるかな [というふうに終わるといい](E)

[]: 筆者の補足 . . . : 省略 (): 保育者A~E

表10-2に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、お話の最後に子どもたちが期待や喜びを感じられるようにすることが重要だと保育者は捉えていることがうかがわれる。大切なことがわかった、上手にできるようになった、これからは上手にできるといった喜びや期待を、登場人物に気持ちを重ねながら感じられるよ

うにすることが重視されているのがうかがわれる。

9. 「テーマの設定」に関する保育者の語り

次に、年少児への「紙人形を用いたお話」実践における「テーマの設定」について、保育者がどのようなことを具体的に重視しているのか、関連する語りについて詳しくみていきたい。

表11-1 「テーマの設定：子どもたちの生活実態にあったテーマにする」にかかわる保育者の語り

- テーマの選び方っていうふうなお話がありました、日ごろやっぱり生活していく中で、この部分 [は] 子どもたちよくできるけど、この部分 [は] 子どもたちに . . . 伝えていきたいなっていうふうな部分を [テーマにしていく] . . . 今日手洗いうがいだった [けれど] . . . 上履きはきちんと履きましようとか、 . . . っていうふうなところが、割と . . . 3歳児っていうのは1年間かけて、生活習慣をきちんと、 . . . 先生たちが身につけさせていきたいと思うので、 . . . こうですよ、だけではなくて、素話して、その生活の中でも、じゃあ履けてるかな？この間のお話よく聞けたから、こんなことできたんだねって、いつも応答しながら、保育の中におろしていく . . . (A)

[]: 筆者の補足 . . . : 省略 (): 保育者A~E

表11-1に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、保育者が子どもの生活実態をふまえ、共に過ごす中で感じる課題、き

ちんと身に付けてほしいと願うことをテーマとして取りあげていくことが重要だと保育者は捉えていることがうかがわれる。

表11-2 「テーマの設定：テーマを伝えるタイミングを考える」にかかわる保育者の語り

- 一番最初にうがいと手洗いの話をします。って言うってから今回話したじゃないですか。あえて話さない場合も [あります] (D)うん(C)
- [子どもたちに最初に] 何々してくれますか？[手洗いうがいのお話聞いてくれますか？] っていうのは . . . じゃあ嫌だとかっていうことになったときにも [困ってしまうので] . . . こんなことがあるの、楽しみよねって言って、そこは . . . 始めてしまっているのかなって思いました(A)
- あえて何を伝えるか最後に言うっていうときもあるんですけど 今回は先にこれをしますって伝えたから、子どもたちも 頭の片隅において 話を聞き始めたのかな？って思っ。伝えたいことを先に言ったってことは、いいのかな(D)

[]: 筆者の補足 . . . : 省略 (): 保育者A~E

表11-2に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、テーマを最初から伝える場合と、あえて最後に伝える場合とがあり、

テーマを伝えるタイミングをよく考えることが重要だと保育者が捉えていることがうかがわれる。

表11-3 「テーマの設定：欲張らずテーマに焦点をしぼって伝える」にかかわる保育者の語り

- ・一番伝えたいのは、遊んだあと手洗いたくないと・・・[具合が悪く]なるよ、ってこと・・・[なのに]間にいろいろトイレに行きましょうとか、いろいろ挟んじょうと何言ってるかわかんなくなっちゃう・・・うん(D)
- ・全部の行程を全部きちんと着実に伝えようと [すると] ね(A)何が言いたいのかが(C)そうそうそうそう(B)
- ・一番伝えたいことが、ぼやけてしまう(A)

[]:筆者の補足 ・・・:省略 ():保育者A～E

表11-3に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、一番伝えたいことがぼやけてしまわないように、欲張らずテーマに焦点をしぼって伝えることが重要だと保育者が捉えていることがうかがわれる。

10. 「全体の構成」に関する保育者の語り

次に、年少児への「紙人形を用いたお話」実践における「全体の構成」について、保育者がどのようなことを具体的に重視しているのか、関連する語りについて詳しくみていきたい。

表12-1 「全体の構成：子どもたちの行動を予想して準備する」にかかわる保育者の語り

- [手遊びの最後に子どもたちが自分のハンカチで手を拭く場面について]
- ・・・[自分のハンカチで手を拭く活動を]最後にするんだったら、[お話の前にハンカチをポケットに] 入られてって言ったほうが [よかった] (A)あらかじめ(C)
- ・[ハンカチの] 確認・・・あると。・・・ (B)ここまで想定していたら(A)うん(B)そこがちょっと (A)
- ・[事前に準備があれば] ほら、みんなで拭けたね～ [とできた] (B)
- ・見えないハンカチとかね。そうすれば持ってなくても全員でできる(D)あ～なるほどなるほどね(C)
- ・透明なハンカチつくって～って言って(D) [自分のハンカチを] 持っていないお友達もじゃあ(C)これで拭きますよ～みたいな(D)なるほどね(C)はい、ポケットにしまっって(D)今はね、お水使っていないからね(C)実際には濡れてないからね(B)そうすれば全員 [同じようにできる] (D)確かに(C)

[]:筆者の補足 ・・・:省略 ():保育者A～E

表12-1に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、あらかじめ子どもの行動を予測し、活動内容に応じて事前に子どもた

ちに必要なものの準備を促したり、想定外の事態にも、臨機応変に対処したりしていくことが重要だと保育者が捉えていることがうかがわれる。

表12-2 「全体の構成：集中力が続くよう手遊び等を途中で挟む」にかかわる保育者の語り

- [最後に子どもたち全員と手遊びをする場面について]
- ・[手遊びは] 一緒に参加できるから [いい]。動かすから、こう手を(B)
- ・[手遊びを挟むと] 雰囲気変わるから、・・・ (D)
- ・・・実際に手も動かして(A)うん(B)動かすことができたから(A)うん(B)
- ・空気を変えるっていうふうな部分の中で [集中力が続いたと思う] (A)

[]:筆者の補足 ・・・:省略 ():保育者A～E

表12-2に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、年少児では集中が持続する時間が短い分、一緒に参加できるような手

遊びを間に挟み、雰囲気を変えることが重要だと保育者が捉えていることがうかがわれる。

表12-3 「全体の構成：長時間になり過ぎないように配慮する」にかかわる保育者の語り

[手洗いうがいの大切さを最後に伝える場面について]

- ・でも、ここまで時間が経っているから(B)うん(C)
- ・・・・あんまり素話の時間が長すぎても、で、結局何が言いたかったのかなって [なってしまう] (B)そうそう(C)
- ・[長時間話をしてしまうと] 子どもの中に・・・[伝えたいことが] 入らなくなっちゃうから、これはこれでたぶん(C)・・・よかったと思う(B)

[]:筆者の補足 ・・・:省略 ():保育者A～E

表12-3 に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、対象が年少児であることをふまえ、メッセージが子どもの中にしっか

り残るよう、あえて話は長時間になり過ぎないように注意することが重要だと保育者が捉えていることがうかがわれる。

表12-4 「全体の構成：最後にまとめをする」にかかわる保育者の語り

- ・[話の最後に、これでみんな手洗いうがいできるね、] 大丈夫ねって [入れるといい] (B)
- ・大丈夫ねってちょっと最後に [言ってあげるといい] (E)

[]:筆者の補足 ・・・:省略 ():保育者A～E

表12-4 に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、最後に全員が安心できるように「大丈夫ね」とまとめることが重要だと保育者が捉えていることがうかがわれる。

11. 「環境設定」に関する保育者の語り
次に、年少児への「紙人形を用いたお話」実践における「環境設定」について、保育者がどのようなことを具体的に重視しているのか、関連する語りについて詳しくみていきたい。

表13-1 「環境設定：すべての子どもからよく見えているか確認する」にかかわる保育者の語り

- ・前に [保育者が] 立ったときに・・・子どもの座っている位置から・・・見えるかなっていうのは [重要で]、あんまり [子どもたちが] 広がりがすぎちゃっても・・・ [子どもに] その場所だと先生見えないって [言われてしまうから、そう] 言われる前にこっちが気付いてあげないといけない・・・(B)
- ・・・・[子どもたちの前に立ったとき] 真ん中 [にいる子ども] はね、正面だからよく見えるんだけど、サイドの方は意外と気を付けてます。見えるかなって。子どもの座った場所とか・・・その位置で [立ち位置を考えます] (B)
- ・自分が立つときには、・・・大丈夫かな [子どもたちから保育者が見えるかどうか] ってのは、いつも [意識します]。見えない子が端だと位置をちょっとずらしてあげたりとか (B)
- ・その園の保育室の環境に応じて [立ち位置を考えないとけない場合もあります] (C)うん(B) [立ち位置は意識] しないとすね(C)
- ・自分が前すぎてもだめだし(B)そうそう、一番前の端の子がちょうど死角になっちゃって [見えないので] (E)
- ・なるべく・・・真ん中で掲示物も貼るよう [にします]・・・。[視覚教材を] 全部・・・使いたいんだけど、端にしすぎちゃうと両サイドの子が見づらいから、なるべく [視覚教材は] 真ん中・・・[に貼っています] (B)

[]:筆者の補足 ・・・:省略 ():保育者A～E

表13-1 に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、保育室の環境に応じて、保育者の立つ位置を常に確認し、端にいる子どもにも見やすいように配慮すること、また掲示

物を黒板に貼るときにも、全員が見えるようになるべく真ん中に貼ることなど、すべての子どもからよく見えているかの確認が重要だと保育者が捉えていることがうかがわれる。

表13-2 「環境設定：他に興味に移らない環境設定にしておく」にかかわる保育者の語り

・黒板にいっぱいいろいろ貼りたいから貼っておくんだけど、箸の絵とかも。だけど、すごく大切な話をしたいとき、私は、全部取って真っさらにして、それだけに目が行くようにして・・・ます。特に年少さんだから、周りにいろいろあるとそっちに気が行ってしまうので [気を付けています] (D)

表13-2に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践においては、他に興味に移らないよう、子どもの興味を引きそうなものはあえて外しておき、こちらが伝えたいことだけに子どもが集中できるような環境設定にすることが重要だと保育者が捉えていることがうかがわれる。

IV. 総合考察

本研究では、筆者自身が年少児を対象に「紙人形を用いたお話」を実践し、その実践を録画した映像に対して複数の保育者に語ってもらい、その語りの内容を分析することを通して、「紙人形を用いたお話」実践における保育者の工夫や配慮について明らかにすることを試みてきた。

表3に見る通り、年少児への「紙人形を用いたお話」実践において保育者が重視するポイントとして明らかになったものは32にもおよんだ。それらは大きくは、「声・話し方」「効果音」「体の動き」「紙人形の効果的活用」「ストーリーの明確化」「子どもの参加」「安心・喜びへの配慮」「テーマの設定」「全体の構成」「環境設定」にまとめられた。

「子どもの参加」「安心・喜びへの配慮」にかかわって保育者が重視していたポイントは、紙芝居、絵本、素話、今回のような「紙人形を用いたお話」実践に限らず、他の保育実践においても共通して重視されるものであり、保育者の保育観にもかかわるもののように思われた。

「声・話し方」「効果音」「体の動き」「環境設定」にかかわって保育者が重視していたポイントは、紙芝居、絵本、素話の実践にも共通するものであると思われた。それに対して、「紙人形の効果的活用」「ストーリーの明確化」「テーマの設定」「全体の構成」にかかわって保育者が重視していたポイントは、テーマの設定、ストーリーの立案、紙人形等の製作、全体の構成を保育者自身が行うからこそ生じてくるものであり、「紙人形を用い

[]: 筆者の補足 ・・・・: 省略 (): 保育者A～E

たお話」実践に特有のもののように思われた。これらの点に、紙芝居、絵本等の読み聞かせ実践にはない、「紙人形を用いたお話」実践における難しさがうかがわれた。しかし、それゆえにこそ、保育者が子どもたちとの日々の生活の中で感じている課題をもとに、保育者自身が創作したストーリーを通して、子どもたちにそのとき伝えたいと思うメッセージを伝えられるというよさも生まれてくるのではないかと思われた。

今回、年少児への「紙人形を用いたお話」実践において保育者が重視する工夫や配慮は実に数多く多種多様であることが明らかとなった。これらのポイントを意識しながら改めて実践を行い、それに考察をくわえていくことで、今後さらに研究を深めていきたい。

付記

本論文は、山梨学院短期大学研究倫理規程に基づく「人の研究に関する研究倫理審査」により承認された(承認番号2016035)。

注

- 1) 森光彩・藤原正光(2011) 集団場面での紙芝居の読み聞かせにおける幼児の視聴態度に関する研究: 視聴座席形態・年齢要因・視聴時間からの検討. 文教大学教育学部紀要. 45.39-47, 腰山豊(2004) 短期大学保育科における実践的指導力の形成と授業改善(7): 紙芝居の文化論的検討と保育利用. 聖園各園短期大学研究紀要. 34.1-14, 並木真理子(2012) 幼稚園における絵本の読み聞かせの構成および保育者の動作・発話が幼児の発話に及ぼす影響. 日本保育学会保育学研究. 50(2). 165-179, 横山真貴子・水野千具沙(2008) 保育における集団に対する絵本の読み聞かせの意義—5歳児クラスの読み聞かせ場面の観察から. 奈良教育大学教育学部付属教育実践総合センター研究紀要. 17. 41-51, 高橋一夫・堀千代・磯沢淳子(2013) 保育現場における素話の実践: 絵本

の読み聞かせとの比較を通して. 常磐会短期大学紀要. 42. 47-56.

- 2) 保育者の語りから実践知をとらえる研究方法については以下の論文を参考にした。砂上史子・秋田喜代美・増田時枝・箕輪潤子・安見克夫（2009）保育者の語りにみる実践知：「片づけ場面」の映像に関する語りの内容分析. 保育学研究.42(2).174-185. 砂上史子・秋田喜代美・増田時枝・箕輪潤子・中坪史典・安見克夫（2012）幼稚園の片付けにおける実践知：戸外と室内の片付け場面に対する語り比較. 発達心理学研究.23(3).252-263.

